

日本文化の
真髓をとらえた
写真家
土門拳

の
古寺巡礼

DOMON Ken
A Pilgrimage to Ancient Temples

2012年 4/20 [金] - 6/3 [日]

●開館時間/9時~17時[入館は16時30分まで]

●休館日/4/23(月) 5/1(火)、7(月)、14(月)、21(月)、28(月)

●観覧料/一般500(400)円/高大生300(240)円/中学生以下無料
※()内は20名以上の団体料金 ※5/5(こどもの日)は無料開館

□主催/八代市立博物館未来の森ミュージアム □特別協力/財団法人土門拳記念館 □企画協力/クレヴィス

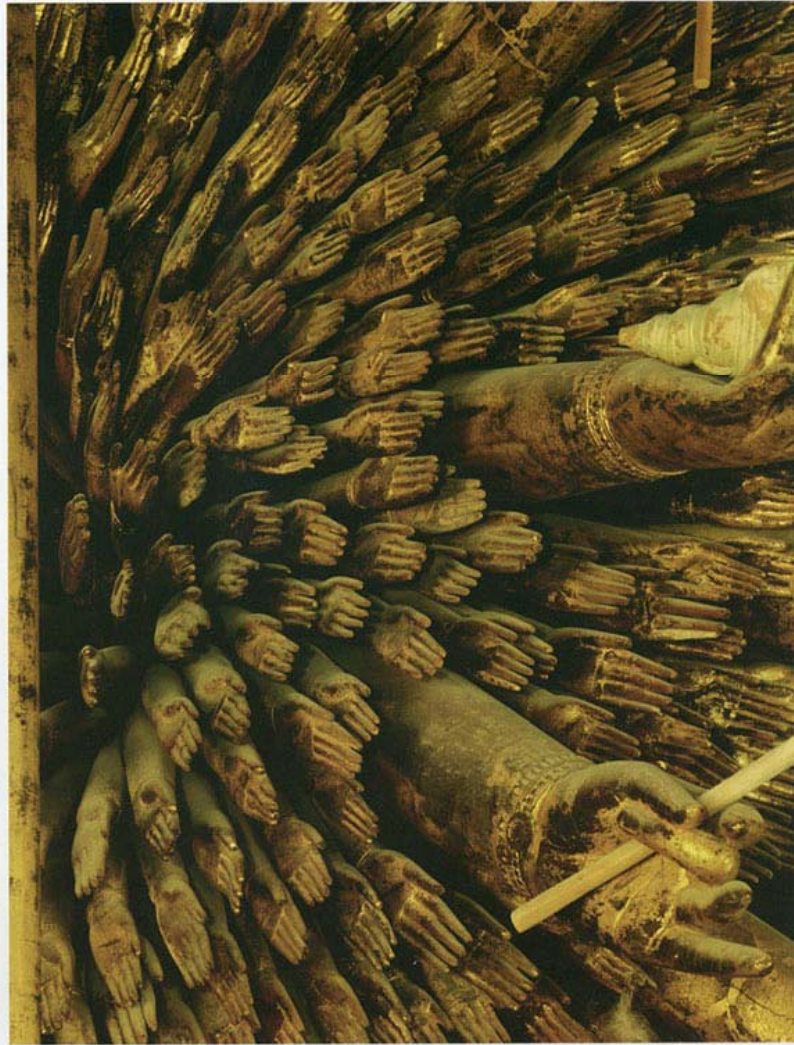
八代市立博物館未来の森ミュージアム

〒866-0863 熊本県八代市西松江城町 12-35 Tel: 0965-34-5555 Fax: 0965-33-9200
<http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/>



ぼくは人生の過半をカメラを背負って古寺を巡ってきた

ドキュメント、人物、古美術、建築、風景、そのいずれにも忘れがたい作品を残し、日本の写真史に巨歩を記した土門拳。そのなかでもライフワークとなった「古寺巡礼」は、1939年の暮れに室生寺を訪ねたことから始まりました。奈良県の山間にひっそりと建つこの美しい寺は、平安時代初期の木彫仏（弘仁仏）の宝庫であり、土門はそのたたずまいにひと目で魅了されます。以後、北は平泉から南は九州まで、仏像撮影の行脚を続けることとなりました。鋭い眼差しで被写体を凝視し、自らが惹かれたものだけを撮り続けた、その独自の視点は、仏像の手や足、口元など細部をクローズアップした写真で象徴的に表されています。二度の脳出血により車椅子での撮影を余儀なくされても、強い信念で写真を撮り続けた不屈の写真家・土門拳。日本を愛し、日本人を愛した土門拳が撮影した永遠の名作「古寺巡礼」から、大型作品を含む約90点で、その魅力に迫ります。



表写真・室生寺弥勒堂 釈迦如来坐像右半面相 上段左より・室生寺雪の五重塔全景／浄瑠璃寺本堂 吉祥天立像頭部／唐招提寺金堂 千手観音立像左脇千手詳細／飛鳥寺金堂 釈迦如来坐像面相詳細



土門 拳

1909年、山形県酒田市に生まれる。東京の宮内幸太郎写真場で修業後、日本工房に入社。1939年頃、美術史家・水澤澄夫の案内ではじめて奈良・室生寺を訪れ、平安初期の木彫仏に興味をもつ。戦後はフリーになり、1950年代にはリアリズム理論を展開。1959年、脳出血で倒れ、35ミリカメラの操作が困難になると、大型カメラによるライフワーク「古寺巡礼」の撮影を開始。この成果は13年間で全五集を刊行した『古寺巡礼』に結実する。1968年再び脳出血によって倒れるが、撮影に復帰。1979年、脳血栓で倒れ、11年の昏睡状態を経て、1990年、80歳にて永眠。

- 特別講演会／博物館講義室にて・聴講無料
「土門拳と古寺巡礼」
日時：4月20日（金）13：30～15：00
講師：藤森 武 氏（日本写真家協会会員、財団法人土門拳記念館理事・学芸員）
- 「九州の古寺巡礼」
日時：5月13日（日）13：30～15：00
講師：石原 浩（八代市立博物館未来の森ミュージアム学芸員）

[交通のご案内]

JR 鹿児島本線・肥前おれんじ鉄道八代駅下車3km
九州新幹線新八代駅下車6km

バス 八代駅・新八代駅西口から「検察庁・法務局・市博物館前」
「北荒神町福祉センター前」「八代市役所前」いずれかのバス停下車

車 八代ICから八代港線に入り、田中西町交差点を左折（南下）
松浜軒前交差点を右折すく ※大型バス4台、普通車40台駐車可



八代市立博物館未来の森ミュージアム
〒866-0863 熊本県八代市西松江城町12-35 TEL0965-34-5555-FAX0965-33-9200
博物館ホームページ <http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/>